

# 周産期母子医療センター（新生児部門）

## 1. 概要

当院新生児医療センターはNICU12床を擁し、愛知県から東三河唯一の総合周産期母子医療センター（新生児部門）に指定され、東三河新生児医療の中心的役割を担っている。重症な児を遠方に搬送することは児の予後に悪影響を及ぼすことから、入院依頼を受けた児は断らないことをポリシーとし、最後の砦としての役割を果たしている。また、地域の新生児医療のレベルアップを図ることも重要な役割と考え、地域で周産期医療に携わる医師、助産師、救急隊員等を対象に、新生児蘇生法講習会や周産期医療従事者研修会を開催した。特に小児科（新生児）第二部長の杉浦崇浩は日本周産期・新生児医学会の新生児蘇生法普及事業ワーキンググループにおいて中心的な役割を果たし、国際蘇生連絡委員会（ILCOR）にも出席して議論に加わるなど、国内外で活躍している。

愛知県は昨年度公表した地域保健医療計画の中に、今後数年の間に県内のNICU病床を現在の165床から180床に増やすことを明記している。東三河に必要なNICUは15から18床と試算されており、今後の整備が望まれる。

（センター長 小山 典久）